

私たちの生活において、スマートフォンを始め、パソコンなど ICT は必要不可欠になってきています。本校でも、GIGA スクール構想によって1人1台端末環境となり、ICT の活用を積極的に行っています。ICT を活用し、自分に合った学び方を身につけることで、学習に対する意欲にもつながっています。例えば、パソコンの操作ができると、日記、メモ、ノートテイクのように自分で文章が書いたり、読み上げ機能を使って情報を得たり、それらを駆使して書類を作成したりすることができ、活動の幅が広がった生徒もいます。今回は、本校のパソコン環境と、操作習得の道すじについて、紹介します。

1 本校のパソコンの紹介

一般のパソコンとの大きな違いは、画面を音声で読み上げる『スクリーンリーダー』という視覚障がい者用音声読み上げソフトがインストールされていることで、音声を聞きながら複雑なパソコン操作が可能となっています。視覚障がい者にとって、スクリーンリーダーはパソコン操作の上で必要不可欠なソフトになります。

以下は、生徒用のパソコンにインストールされている主なソフトです。

- PC-Talker（スクリーンリーダー：音声読み上げ）
※他にも NVDA（無料）、JAWS for windows 等がありますが、
本校では PC-Talker を使用しています。
- T・エディタ2、点字編集システム7（点字編集）
- メモ帳（テキストエディタ）
- Windows Media Player（動画再生）
- Microsoft：Word（文書作成）、Excel（表計算）、Power Point（プレゼンテーション）

2 音声ユーザーのパソコン操作習得の道すじ

音声ユーザーは、次の ①～⑤ のような段階を踏みながらパソコンの操作を身につけていきます。

① パソコン機器の構造や仕組みの理解

：電源ボタンの位置と起動音による入切の確認

② アプリの選択と起動

：Alt キー、矢印キー、Tab キーで項目選択、Enter キーで起動

③ タッチタイピングの習得

：キーボードのホームポジション「F,D,S,」「J,K,L」の指の置き方に慣れていきます。尚、点字タイプライターの使用経験がある場合、このホームポジションで6点入力が可能です。



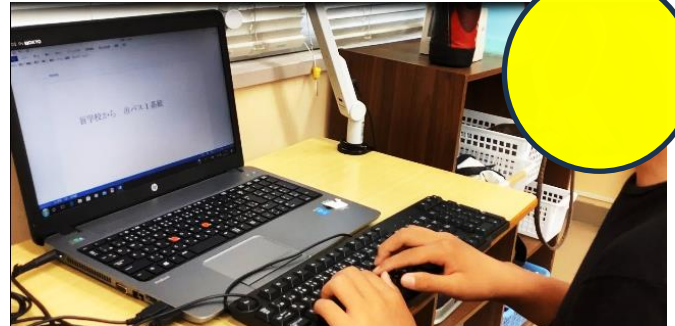
④ 「メモ帳」等の文字編集ソフトでの入力

：6点入力で導入を始めた場合も、段階をみて、全てのキーを利用したローマ字入力に移行します。 ※ローマ字の理解が必要になります。

⑤ ショートカットキー入力を利用した文書編集

：Ctrl キー、Alt キーを組み合わせることで、文字列の移動・複製、文書保存等の操作を簡単に行う方法を身に付けます。

音声ユーザーのパソコン操作の基本は、マウスを使わずに、スクリーンリーダーが読み上げる画面の情報を手掛かりに行っていきます。技能の習得も重要ですが、デスクトップやメニュー画面で項目がどのように並んでいるかといったイメージを点図等で養うことも大切です。



次号ではパソコンを使った取り組みをご紹介します！



『全国盲学生点字競技大会』

中学部、高等部から3名の生徒が、11月に行われた全国盲学生点字競技大会に参加しました。競技種目は ①五十音書き…2分間に50音を正しい順番で、正確にできるだけたくさん書く。②転写…与えられた文章を、レイアウトも含めてそのまま写しとる。③聴写…読み上げられる文章を書きとる。の3種目で、点字盤を使って行います。それぞれ、自立活動の授業で練習を重ねましたが、毎日五十音書きをしている生徒は、さすがに正確で美しい点字でした。さらにスピードを意識できたらレベルアップできますね。中には、点筆（てんぴつ）の調整をしてもらった生徒もいました。「やっぱりまっすぐやと打ちやすいわ!」との感想の通り、点字も読みやすくてきれいになっていました。道具のメンテナンスも大切ですね。どうして点筆が曲がってしまうのか、癖を見直すのも良いかもしれません。今回の参加をきっかけにたくさんの気づきがありました。点字盤を使っている人は、点字盤や点筆、自分の点字を再度点検してみてください。気づきがあるかもしれません。次回の開催は再来年です（隔年開催）。ぜひチャレンジしてみてください！

